

# 夫婦で子育て

東京都立大学教授・心理学

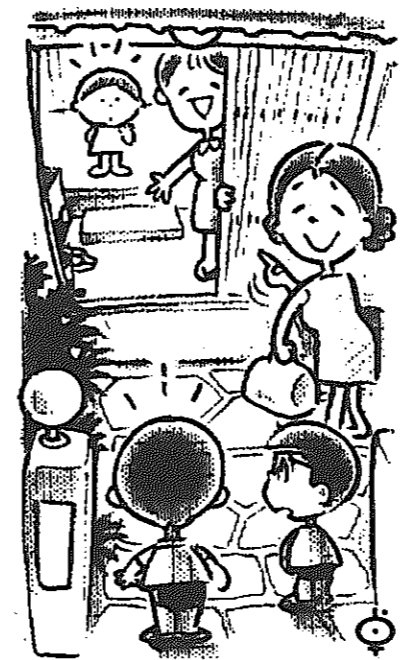
訃 摩 武 俊

最近の子供たちの様子、二十年前、三十年前に、自分たちが子供だったころと比べて、だいぶ変わってしまっただろうかと思ってしまう。

例えば、子供の数が少なくなった、病気をしなくなった、遊び方が変わってきた、おもちゃが豊富になり高価になった、塾やおけいごなど多忙になったなど、たくさんの変化が挙げられるでしょう。祖父母との接触が少なくなったとか、けんかをしなくなったという特徴を挙げる親もいるでしょう。すべて現在の子供たちに一般的に認められることで、これらについてはご承知のことも多いと思います。

## 経験と心の発達

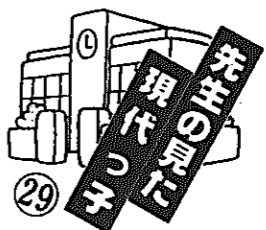
これは別に、よその家庭に行ったり、よその人が自分の家に来ることが少なくなっただけで、叔母さんの家に泊まりがけで遊びに行き、いとこ



ちが多忙になったこと、ホテルが広く普及したこと、親類や知人とのつきあいを煩わしいと思う人が増えたという事

情が、これらの機会を少なくしてしまっただけです。なんでもないことのようにですが、親や兄弟以外の人と親しく接すること、言葉を変えて言えば、多様な人間関係を持つことは子供の心の発達に必要なことだと思えます。同じ三十代の男性でも父親との叔父とはどこが違うか、あの叔母の家と自分の家とは雰囲気はどう違うかを知ることができるといいですね。親類の人の前では、子供でも自分をよく見せようと努めます。言っていることと異なること、このような機会を通して習得されます。

家庭を単調で、閉鎖的なものにしていないで、子供の年齢に応じて経験の範囲を拡大していく配慮が親には期待されるのです。



## 遊びも変わる

「近ごろの子供は……」と大人が、自分たちの子供のころを回想しつつ、ときには嘆きにも近い言い回しで、つぶやいているのを耳にすることがあります。

「子供は子供、今も昔も本質的には変わっていない」という意見にもうなずけますが、やはり時代の進歩とともに、子供たちの生活、価値観も変化してきているようです。

なかでも「変わったなあ」と感じるのが、子供たちの「遊び」です。冬休み前、学級指導の時間を活用して、休み中の「遊び」について尋ねてみました。

結果は予想どおり、私どもが子供のころ楽しんだトランプやかるた、人生ゲームなどは出てきませんでした。こたつを囲んで、一枚のカードに一喜一憂した、あの家族や友人とのコミュニケーションは、どこへ行つたのでしょうか？ 子供に言わせれば、トランプはともかく、かるた取りなどをしていたら「バカにされる」「古くさい」ということです。

教室での子供たちの話を聞いていて、時の流れを痛感するとともに、一抹の寂しさを感じずにはいられませんでした。

「遊び」の変化も、時代の進歩による副産物として自然な流れなのでしょう。その流れを認めつつも、親子や兄弟、そして友人とのコミュニケーションの場を失うことのないよう、子供たちの生活を見守り、手助けをしていく必要があると思います。

(新飯田小学校にお願いしました)

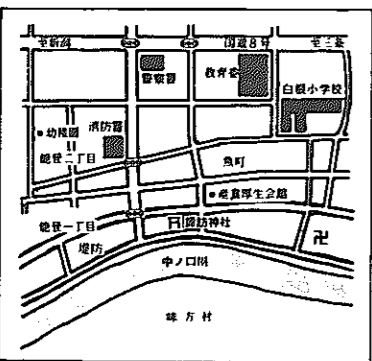
## 三割が染め物関係の仕事。それで「能登紺屋」

神社がいつ建てられたのかは残念ながらわかっていませんが、明治の初期と思われる。

正面の額「諏訪神社」の文字は、阿波の国(今の徳島県)の豪商人と言われる竹仙という人が書かれたそうです。当時は染物屋や、それに関連した商売の家が二十五、六軒あり、藍の卸しにたびたび白根に来られたそうです。当時の能登は全戸で七、八十軒くらいだった

## 私の思い出 書のおまけ

竹仙が書いた正面の額(写真左)。このほか土地=柏佐一郎さん(能登)の祖父が無償提供。百度石=宮前の型屋で現在東京在住の田辺忠二さんの父、熊二郎さんの寄贈と思われる。水屋=大正15年、加藤清作さん、清二郎さん、図面設計者の清一郎さん親子一族の寄贈。鳥居と前の石垣=大正15年、みの口出身の相場長松さん(三条市)の寄贈。狛犬=昭和12年、能登出身の外川和一郎さん(横浜市)の寄贈。献灯=明治28年、室崎佐喜男さん(能登)の祖父、清七と喜さんの寄贈。「日清開講和記念」記されている。拝殿の大額教憲さん(元白根小学校教師)の書。



たと思われま。そのうち三割が染め物関係の商売だったのですから、能登紺屋(染物屋)と呼ばれていたらしいこともうなずけます。健在であれば百歳前後の人たちが子供のころ、御神体をおもちやと思いついで遊んでいたという話を聞いていたので、神官にお出ましを願って確認したことがありません。丈は一尺、台座約三寸、束帯は黒紫で、両手に笏を持ち腰に太刀、神代冠、いずれも傷一つなくまことにりっぱな御神体でした。

- へと へた
- べと 土
- べべ 着物。根岸地方
- ぼ 赤ん坊。新飯田地方
- ぼや 白根・白井・大郷・鷺巻・根岸地方
- ほーせ 細い
- ほーばる 口の中に入れる
- ほいと 道楽
- ほげと 庄瀬地方
- ほいと この野郎
- ほげと 庄瀬地方
- ほうする ほう
- ほうせば そうすれば。鷺巻地方
- ほうたく ぼろぼろの布。茨曾根・庄瀬・大郷・鷺巻地方
- ぼろ 新飯田・根岸地方
- ほうちん じゃんけん。新飯田地方
- ほうりやん 茨曾根・鷺巻地方
- ほうりん 庄瀬・白井・根岸地方
- ほうれい 白根・大郷地方
- ほうれんや 大郷地方
- ほんぎやつ 茨曾根地方
- ほうちんや じゃんけんのかけ声。新飯田地方
- ほうりんや 新飯田地方を除く全地域
- てっばはすれ 白井・根岸地方
- ほうこす こわす
- ぼつかうす 茨曾根地方
- ぼつたくる 追いかける
- ほつべた ほほ
- ぼて かご
- ぼんぼんげた ポックリげた
- まげ おさげ
- ますます 別れるときのあいさつ
- まっぴるま 昼中。白井・大郷地方
- こっぴるま 庄瀬・白井・大郷地方
- ひんなか
- まんだら ではさようなら。根岸地方
- まんだらせんならま 全地域
- まんばち 見当違い
- まんま ご飯
- みーじけ 短い
- みーじけえ 新飯田地方



昭和四十三年、故福島定治氏(当時、市教育委員会 社会教育主事)編集「しろねのことば」から



能登：諏訪神社